

科目名称	地域理学療法学
授業コード	AD355
英語名称	Community-based Comprehensive Physical Therapy
学期	2024年度後期
単位	2.0
担当教員	五味 雅大, 宮下 良美, 村松 和樹, 深沢 太郎, 渡辺 長, 秋山 雅美, 芝 伸悟, 西條 富美代
記入不要 ナンバリ ングコード	
授業の概要	<p>(B) 自己実現能力の養成を行う。</p> <p>地域における臨床経験のある理学療法および現在地域の現場で臨床に携わっている他職種講義を通して、地域理学療法の活動内容を学び、他職種の役割、理学療法の役割を理解する。また、地域で生活するために必要な法制度を学ぶ。</p> <p>多くのスタッフの中における理学療法士の視点や目標を学び、理解する。</p> <p>担当する教員は、現在も地域の臨床現場にかかわっている理学療法士 (PT)、作業療法士 (OT)、ケアマネージャー (CM) で講義を行う。</p>
科目に関連する実務経験と授業への活用	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法士を目指すうえで必要な地域理学療法における概念、評価の仕方、関連法規、考え方などを、理学療法士として臨床経験のある教員が分担して講義する。 ・現在、地域において活躍している多職種の外部講師による講義を通して、地域理学療法の分野についての幅広い視点と基礎的な知識、各専門職による視点などについて学ぶ。 <p>深沢太郎：作業療法士（居宅介護支援事業所経験） 村松和樹：理学療法士（介護老人保健施設所、クリニック経験） 秋山雅美：ケアマネージャー、保育士（共生型デイサービス経験） 芝伸悟：理学療法士（介護老人保健施設経験） 西條富美代：理学療法士（総合病院、介護老人保健施設、訪問理学療法経験） 渡辺長：理学療法士（総合病院経験） 宮下良美：理学療法士（総合病院、クリニック、訪問理学療法経験） 五味雅大：理学療法士（総合病院、クリニック、訪問理学療法経験）</p>
到達目標	<p>ディプロマポリシーに掲げる基本的な理学療法を実践できる知識と技術を身につけることを目標とする。</p> <p>【科目特有の知識・技術についての到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.地域における理学療法の内容を理解する。 2.地域理学療法をおこなうにあたり必要な法制度を知る。 3.地域理学療法における視点を理解する。 4.多職種との連携、理学療法の役割を理解する。 <p>【汎用能力としての学士力についての到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.専門職としての理学療法の役割を理解するとともに、地域で生活する人に対する視点をもつ。
計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1)地域とは・対象者のとらえ方 担当教員：五味・西條 (PT) 2)制度と関連法規・社会資源 担当教員：五味・西條 (PT) 3)地域での連携・他職種との協働 担当教員：五味・西條 (PT) 4)地域理学療法の展開 (1) 施設における理学療法 担当教員：五味・西條 (PT) 5)地域理学療法の展開 (2) 在宅における理学療法 担当教員：五味・西條 (PT)

計画・内容	<p>6)リスクマネジメント 担当教員：五味・西條 (PT)</p> <p>7)健康状態の評価・健康増進 担当教員：五味・西條 (PT)</p> <p>8)家族との関係作り 担当教員：五味・西條 (PT)</p> <p>9)事例演習 担当教員：五味・西條 (PT)</p> <p>10)世界における地域理学療法 担当教員：渡辺 (PT)</p> <p>11)高齢者福祉における理学療法士の視点 担当教員：芝 (PT)</p> <p>12)連携によるチームワーク(1) 担当教員：秋山 (CM)</p> <p>13)連携によるチームワーク(2) 担当教員：深沢 (OT)</p> <p>14)地域における理学療法士の視点 担当教員：村松 (PT)</p> <p>15)終末期における理学療法士の視点 担当教員：宮下 (PT)</p>
授業の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書,参考資料を用いた講義形式で授業を行う。 ・演習として、グループディスカッションや事例検討を必要に応じて実施する。
能動的な学びの実施	<ul style="list-style-type: none"> ・グループディスカッションを含め、アクティブラーニングを取り入れ、演習を適宜行う。
授業時間外の学修	<ul style="list-style-type: none"> ・授業前に予め提示資料や項目内容を調べ、不明な点をまとめておくこと(各回1時間程度) ・配布資料と関連付けて自分の講義ノートを整理すること。(合計35時間程度) ・グループで検討した内容をまとめる(合計10時間程度)
教科書・参考書	<p>教科書：牧迫飛雄馬・吉松竜貴(編集),「最新理学療法学講座 地域理学療法学」医歯薬出版株式会社,2022</p> <p>参考書：(監修)細田多穂(編集)備酒伸彦 樋口由美 対馬栄輝,「シンプル理学療法学シリーズ 地域リハビリテーション学テキスト 改定第4版」南江堂,2023</p>
成績評価方法と基準	レポート課題(100%)にて評価
課題等に対するフィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・作成したレポートは、授業内でフィードバックを行ったり、グループ討議の資料として使用する。
オフィスアワー	CampusSquareを参照
留意事項	複数教員および非常勤講師による授業となるため、項目の順番が前後する場合があります。
非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」	<p>授業の進め方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Zoomによるオンライン授業と課題学習を組み合わせる。 ・授業動画配信によるオンデマンド授業となる場合がある。 <p>成績評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業時の課題 50% ・総合課題 50%